

島田学園長「旭日中綬章」受章!

文京学園園長・前理事長・元大学学長の島田燁子先生が5月12日、「旭日中綬章」を受章しました。

これは日本で最初の勲章であり、「社会の様々な分野における功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者を表彰する場合」に授与されるもので、島田学園長は「学校教育又は社会教育の振興に寄与した者」としてその功績が高く評価されました。

当日は、国立劇場(千代田区津町)で勲章伝達式が行われ、島田学園長が代表

文京学園園長は次のように想いを述べました。「学校は、教職員はじめ様々な方々の力の総合力で成り立っています。創立者の依史子先生と二代目の和幸先生は、大

で馳浩文部科学大臣より勲章を授与されました。式終了後、島田学園長は他受章者と共に皇居へ移動。「春秋の間」で天皇陛下に謁見し、お言葉をいただきました。

島田学園長は次のように想いを述べました。「学校は、教職員はじめ様々な方々の力の総合力で成り立っています。創立者の依史子先生と二代目の和幸先生は、大

変なご苦労を重ねて3キャンパスを設置されました。皆様がその想いを共有し、園児・生徒・学生に少しでも良い教育を提供したいと必死に頑張ってきました。このことから、私は皆さんの代表として今回、「旭日中綬章」をいただいたと思っています。今後も変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます」



勲章を胸に(国立劇場にて)



馳文部科学大臣から「旭日中綬章」を授与される島田学園長(右)



「旭日中綬章」賞状

中高 大学 熊本地震被災地に想いを寄せて

4月14日の熊本地震発生後、文京学院では生徒や学生が様々な支援を行いました。

11万9281円を日本赤十字社へ

中学・高校生徒会は、4月16日〜4月30日まで本部棟南門、同事務所前、進学棟事務所前の3カ所で、義援金募金活動を実施。募金は「平成28年熊本地震災害義援金」という形で日本赤十字へ贈りました。

宮崎桜子高校生徒会長(2梅)は、「熊本地震の後すぐに本校で支援の場を設け、沢山の協力が得られたことを通じて、文京学院の仁愛の心を感じることができました。」



想いを込めて義援金募金活動

環境教育研究センター

タオルを「竜之介動物病院」へ

同センターでは、被災したペットと飼い主を同時に引き受ける避難所を開設した「竜之介動物病院」への支援を即開始。同病院で、支援物資としてタオルや毛布等を求めていることを知った学生50名が、22日か

ら学内放送、展示、SNS、電子掲示板などにより、まずは緊急にタオル収集の呼びかけを行い、アトリウムに受付を設置。5日間でダンボール52箱分の支援物資が集まるといふふじみ野キャンパス挙げての支援活動になりました。

同活動の代表・富永恵莉さん(心理学科4年/左)の写真後列左から2人目は「ニュースで同病院は洗濯ができないことからタオルが緊急に必要である」という情報を得て即、動きました。皆さんの想いと協力に感謝します。

また、同センターの学生たちは5月7日、「市民ボランティアふじみ野」に協力し、ふじみ野駅と上福岡駅で義援金募金活動も実施。



動物病院支援に動いた環境教育研究センターメンバー

「学生自治会」「グローバルボランティア部」

5万716円を「NPO法人コムスタカ/外国人と共に生きる会」へ

本郷キャンパス学生自治会本部とグローバルボランティア部が義援金募金を企

画。文化祭実行委員会、文体連合委員会との協力を得て、5月13日〜20日までの昼休みにB'sダイニング、B'sカフェ、中庭等で活動しました。なお、募金箱は5月末まで学生支援センター前に設置しました。

同活動のメンバー、グローバルボランティア部の西岡あゆみさん(外国語学部4年/左)の写真中列左から2人目は「東日本大震災時には、本学の東北復興支援委員会の一員として現地に参りました。現地でのボランティア活動や物資発送等、様々な支援活動がありましたが、今回はすぐに取り組める募金活動をしました。」

地域連携センターBICS学生実行委員のべ101名が5月11日〜31日まで、ふじみ野駅・上福岡駅・らぼりと富士見・ソヨカ・ふじみ野キャンパスで義援金募金活動を実施。学生がソフト制を担当し、連日各所で協力を呼びかけました。

BICS 20万4028円をふじみ野市社会福祉協議会へ



心を合わせて活動した学生自治会、グローバルボランティア部メンバー



ふじみ野駅で活動中のBICSメンバー

人間学部 学部長/教授 木村浩則



心理学や保育・教育学、そして福祉学は、人間の関係性がはらむ問題圏から生じたと言えるかもしれませぬ。そしてコミュニケーション社会学は、人と人の間に生ずるものとしての社会(公共圏)を対象とした学問と言えるでしょう。

人間学部とは何か

「人間たあ一体なんだ？」これは、ゴリキイの戯曲『どん底』で登場人物の語る台詞の一節です。この問いは、文学や哲学の世界で永く繰り返されてきました。そして現在も未解決の問いとして私たちの前に開かれたままです。私には、人間学部の学びはこの問いに対する一つの答えを出すように思えます。それは人間とは「共にある存在だ」ということです。

人間学部はコミュニケーション・シジョン社会、児童発達、心理、人間福祉の四つの学科から構成されています。これらの専門領域に共通するのは「人とかわる」ということです。少なくとも学生が「人とかわる専門職」を目指している。「人間」という漢字は、人の本質が主観性にあることを指し示しています。「人と人の間にある」ということは、人間存在の根本条件だということです。人間は他者なしに生きていくことはできません。しかしそれがときに人間の苦しみの原因にもなります。

Green Spirits

と非人間化が進行する社会のなかで人間の尊厳を取り戻すために「人間とは何か」を問い続ける精神のことで、その意味で、人間学部はいま最も必要とされる学部であり、「間主観性の危機」とも呼ぶうる現代になくてはならない人材を養成している学部だと言えるのではないのでしょうか。



南洋理工大生との楽しい会話



南洋理工大生を囲み大盛り上がりの日

高校 SGHスーパーグローバルハイスクールアンソニエイト シンガポールのトップ大学生が本校で授業

本校は文部科学省からSGHアンソニエイトに指定されています。学科横断的な授業が日々展開される中で、生徒たちは本校が目指す「空間力」を身につけるために、多種多様な体験を重ねています。

今回は、毎年トップスクールにランク付けされているシンガポールのNgee (Nanyang Technological University (NTU) / 日本語名「南洋理工大」) の学生たちが、本校で英語による授業を行いました。

5月18日、シンガポール南洋理工大の学生11名(関係者含め30名)が、授業は以下の7つのテーマを設定しました。

- 「クラスに外国人がやってくる」
- 「未知の世界で生きていくための力をつけよう」
- 「異文化理解を考える」
- 「グローバルという選択」と英語コミュニケーション
- 「グローバルという選択」と英語コミュニケーション
- 「グローバルという選択」と英語コミュニケーション
- 「グローバルという選択」と英語コミュニケーション

この授業が実現しました。授業は以下の7つのテーマを設定しました。クラスに外国人がやってくる。未知の世界で生きていくための力をつけよう。異文化理解を考える。

環境問題に関する出張授業を行うために来校しました。同大学は、世界大学ランキングにおいて東京大学に匹敵する名門大学で、本校での授業は2回目となります。

本校では、東京海洋大学の小松俊明教授にSGHアンソニエイトプログラムの指導をいただいておりますが、同教授が率いるグローバル人材育成プログラム「海外発探検隊」の一環として、



「ひよつとこ踊り」を披露

環境教育研究センターの学生たちが4月17日、都市農村交流の一環として、「福島ワインプロジェクト」をパトリア桶川(埼玉県桶川市)で開催しました。農業を通じて社会活動を行う本学の学生に、

者不足に悩む果樹園と連携してワイン作りを支援し、生産者と消費者を結びつける「福島ワインプロジェクト」など多岐にわたります。今回のイベントでは、逢野町の農家民泊団体「なんだべ村」村長・石井忠勝さんを招き、まずは学生たちと石井さんで「ひよつとこ踊り」を披露。興味をもって集まった来場者も前に、石井さん、中瀬亮兵さん(コミュニケーション3年)、富永恵莉さん(心理学科4年)がそれぞれの取り組みについて熱く語り、来場者は熱心に耳を傾けました。当日、司会を務めた津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。

津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。

「ひよつとこ踊り」を披露。興味をもって集まった来場者も前に、石井さん、中瀬亮兵さん(コミュニケーション3年)、富永恵莉さん(心理学科4年)がそれぞれの取り組みについて熱く語り、来場者は熱心に耳を傾けました。当日、司会を務めた津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。



今年度の農業インターンシップ生と関係者

大学 本学学生と「なんだべ村」村長がトークショー

環境教育研究センターの学生たちが4月17日、都市農村交流の一環として、「福島ワインプロジェクト」をパトリア桶川(埼玉県桶川市)で開催しました。農業を通じて社会活動を行う本学の学生に、

者不足に悩む果樹園と連携してワイン作りを支援し、生産者と消費者を結びつける「福島ワインプロジェクト」など多岐にわたります。今回のイベントでは、逢野町の農家民泊団体「なんだべ村」村長・石井忠勝さんを招き、まずは学生たちと石井さんで「ひよつとこ踊り」を披露。興味をもって集まった来場者も前に、石井さん、中瀬亮兵さん(コミュニケーション3年)、富永恵莉さん(心理学科4年)がそれぞれの取り組みについて熱く語り、来場者は熱心に耳を傾けました。当日、司会を務めた津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。

津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。

「ひよつとこ踊り」を披露。興味をもって集まった来場者も前に、石井さん、中瀬亮兵さん(コミュニケーション3年)、富永恵莉さん(心理学科4年)がそれぞれの取り組みについて熱く語り、来場者は熱心に耳を傾けました。当日、司会を務めた津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。



今年度の農業インターンシップ生と関係者

大学 農業インターンシップ始動!

本学では、農村都市交流事業として「米作り体験」を展開している地元・追分通の三面大黒天商栄会、向丘追分町の協力を得て、毎年学生たちが農業インターンシップ生として参加しています。受け入れ先は、群馬県前橋市富土見町の伝次平俱樂部。

今年度も、向丘二丁目遊園地での「朝市」(5月8日)を皮切りに、同インターンシップが始動! 新メンバーは松本梨帆さん(外国語学部2年)、Dung Tran Anhさん(経営学部2年)、瀬戸雄太さん(外国語学部3年)、能登文乃さん(同2年)、村上千沙都さん(同2年)、村上千沙都さん(同3年)。昨年のインターンシップ生・外国語学部4年の吉田香穂さん、山下幸子さん、古田優菜さん、山口航平さんのアドバイスを受けながら、米作りの体験の受付、野菜・非常備蓄食料品販売、熊本地震支援募金などを担当しました。

商栄会による餅つきの後、心尽くしの餡こころ餅・磯部餅や味噌汁が振る舞われ、一同舌鼓を打ちました。本郷消防署による消火器訓練もあり、担当者より「若い人たちは巻き込んでの地域活動は素晴らしい!」と称賛の声が上がりました。

今後のインターンシップは、田植え(6月12日)、加工体験(8月6・7日)、祭礼(9月17・18日)、稲刈り(10月9日)、文京祭出展(10月16日)、産祭(11月3日)、収穫祭(11月13日)と活動が続きます。担当の小林益夫副会長・事業部長(同商栄会)は「充実したインターンシップになるように努めます。学生の皆さん、頑張ってください!」とエール。

ベトナム出身のDungさんは「実家は農業をしていたため、日本の農業にも興味をもっています。このインターンシップで多くの知識を吸収しながら、



今年度の農業インターンシップ生と関係者

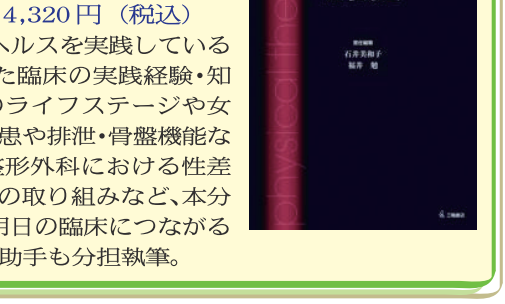
興味をもった同店からのオフ会により実現したイベントです。

同センターと人間学部コミュニケーション社会学科では、10年前から福島県郡山市と交流。活動内容は、毎年1回郡山市の農村を訪れて自然・文化・人々の交流を楽しむ余暇形態「グリーンツーリズム」や、原発事故による風評被害に苦しむ同市蓬瀨町の農家支援「野菜代行販売」、後継

津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。

津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。

「ひよつとこ踊り」を披露。興味をもって集まった来場者も前に、石井さん、中瀬亮兵さん(コミュニケーション3年)、富永恵莉さん(心理学科4年)がそれぞれの取り組みについて熱く語り、来場者は熱心に耳を傾けました。当日、司会を務めた津幡(トークショー)では、中瀬先輩が農業に無知であった自分がどのように変化して農業が大好きになったか話をし、興味深かったので子どもも一生懸命話を聞いてくれたこと、来場者が一緒に踊って「ひよつとこ踊り」を踊ってくださったことがとてもうれしかった。



今年度の農業インターンシップ生と関係者

新刊書コーナー

★『コンテンツ製造論』 公野 勉 (経営学部教授) 著/風塵社刊(2016年4月)3,024円(税込)
映画、ゲーム、出版、アニメ、テレビ等COOL JAPANを築き上げた産業はどこへ向かうのか? 業界で活躍中の10名へのインタビューや、公野教授の論考を通じ、それについて提示している。



★『胸郭運動システムの再建法 - 呼吸運動再構築理論に基づく評価と治療』 柿崎 藤泰 (保健医療技術学部 理学療法学科教授) 編集/三輪書店刊 (2016年6月1日刊行予定) / 5,832円(税込)
保健医療科学研究科・大学院生分担執筆。本書では、筆者らによる臨床および研究から導かれたデータを裏付けに、そのメカニズムから治療応用までを豊富なカラーイラストで容易に解説。呼吸器官である胸郭を運動器官として捉え、破綻した呼吸や姿勢活動を再建する新しい知見と臨床技術が獲得できる実践書。

★『理学療法 MOOK20 ウィメンズヘルスと理学療法』 福井 勉 (保健医療技術学部長・理学療法学科教授) ほか責任編集/三輪書店刊 (2016年6月1日刊行予定) 4,320円(税込)
本書では国内でウィメンズヘルスを実践している理学療法士によって集積された臨床の実践経験・知識を余すことなく紹介。女性のライフステージや女性特有のがん、更年期以降の疾患や排せ・骨盤機能など基礎的な内容から、内科や整形外科における性差への考慮、地域コミュニティでの取り組みなど、本分野に興味をもつ理学療法士の明日の臨床につながる実践的な1冊。同学科・布施陽子助手も分担執筆。

